市報 ぎょうだ No. 909 令和4年3月1日 発行

行田 歴史系譜 336

資料がかたる 行田の歴史 36

11月の卒業証書～明治時代初期の小学生事情～

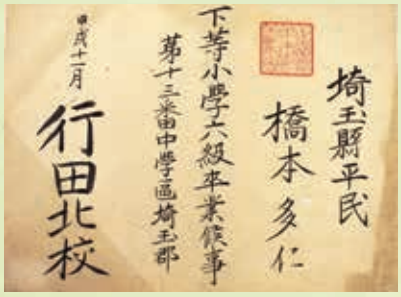
3月は卒業の季節です。今回はそのような季節の話題として、卒業証書について紹介します。早速ですが、明治7年（1874）に発行されたもの（画像参照）を見てみましょう。受取人は橋本たに、本文には「下等小学六級卒業候事」とあります。これによれば、橋本たにという小学生が甲戌年（明治7年）11月に下等小学の6級を卒業した、ということが分かります。何だか不思議な時期に卒業していると思いませんか。

実は、ここでいう「卒業」は現代と意味合いが異なっています。6～9歳の子どもが通う下等小学は入学時に8級から始まり、最上級が1級でしたので、6級はまだ下等小学を終えられる級ではありません。さらに、当時の小学校では半年ごとに試験があり、その試験に合格しなければ進級できませんでした。つまり、試験に合格して進級することを当時の証書では「卒業」と書いていたのです。半年ごとの試験に全て合格し各級を「卒業」すれば、4年で下等小学を終えて上級小学に進むことができたというわけです。

ところで、この証書の発行から7カ月前の明治7年4月、たには「臨時大試験合格」の証書と賞品を授与されたことも資料から判明しています。その時の証書には「行田学校八級生」とあり、下町の長徳寺（現在の愛宕神社付近）にあった行田学校に入学して間もない頃だったのでしょう。しかし、その7カ月後に6級を卒業しているとなると、半年に1回という進級試験の頻度と数が合いません。可能性として、8級から6級への飛び級が考えられます。臨時大試験は県の主導で行われた特別な試験で、たには最高成績「一等科」を収めており、優秀な児童であったといえます。当時の学制では進級試験を必須としつつ、実際の成績を考慮した措置も取られていましたので、臨時大試験の結果を受けての飛び級は十分あり得る話です。

ちなみに、たには名前からして女子児童と思われます。県下の女子児童就学率が15パーセント程度しかなかった当時からすると、このような好成績は驚くべきことと思われるかもしれませんが、それもそのはず、たにの家は後に行田電灯設立にも携わる足袋屋の橋本家です。当時の行田で名の知られた商家ともなれば、女子教育に熱心であったこともうなずけるでしょう。

（郷土博物館　岡本夏実）



下等小学六級卒業候事
（郷土博物館蔵 橋本家文書）

はじめまして

令和3年 3月生まれ のおともだち

令和3年5月生まれのお子さんを募集します

- 3月1日㈫～31日㈭に電話またはEメールで広報広聴課（内線318）※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、4月4日㈪午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

丹治 暖太（ひなた）ちゃん（清水町）
令和3年3月15日生まれ
父・大輝さん　母・美沙さん
「我が家のお殿様！ひなちゃん、大好きだよ♡」

福島 悠平（ゆうへい）ちゃん（西新町）
令和3年3月8日生まれ
父・聖史さん　母・詩帆里さん
「毎日笑顔をありがとう♡のびのび育ってね！」

大野 玖留（くりゅう）ちゃん（駒形）
令和3年3月22日生まれ
父・元気さん　母・絵里花さん
「家族を笑顔にしてくれてありがとう」

小池 奏瑛（かなえ）ちゃん（佐間）
令和3年3月15日生まれ
父・佳史さん　母・美知代さん
「元気いっぱい、笑顔いっぱい☆」

栗原 楓（かえで）ちゃん（南河原）
令和3年3月27日生まれ
父・武史さん　母・麻衣さん
「楓君の笑顔がみんなの癒しだよ☺」

森田 和翔（かずと）ちゃん（門井町）
令和3年3月23日生まれ
父・将平さん　母・純子さん
「癒やしの3男坊☆元気に育ってね♪」

今月の表紙　今月の表紙は、60年以上の歴史を持つ市内南河原地区（旧南河原村）の伝統産業「南河原スリッパ」です。
かつて日本一の生産量を誇ったスリッパ産地では、伝統技術を守りながら、その技術と新しいデザインを融合したスリッパを開発しています。日々進化する南河原スリッパは、職人によって手作りされる品質の高さとともに評価され、再び人気を集めています。

現在の友だち登録数28,000人！
行田市公式LINEの友だち登録はこちらから！
- 市政・イベント・防災などに関する行政情報を発信します。

ホームページ https://www.city.gyoda.lg.jp

VEGETABLE OIL INK 環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361－8601 行田市本丸2番5号
TEL 556－1111 FAX 550－2116